

第5回 第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会 要録

日 時 令和6年12月26日(木) 午後7時～午後9時10分

場 所 武蔵野公会堂 第1・2会議室

出席者 渡邊委員長、町田副委員長、小山委員、高橋委員、青木委員、毛利委員（名簿順、敬称略）（名簿順、敬称略）

事務局（事務局市民活動推進課長 ほか3名）

欠席者 なし

傍聴者 6名

■ 次第

1 開会

2 議事

報告書素案について

3 その他

4 閉会

■ 配布資料

資料1 報告書素案

参考資料 第4回委員会 傍聴者意見1

参考資料 第4回委員会 傍聴者意見2

1 開会

【委員長】

第5回第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会を開会します。年の瀬も迫るなか、お集まりくださりありがとうございます。本日もしっかりとした議論ができればと思います。

【事務局】

議事についてです。本日は引き続き、報告書の素案の検討をお願いします。当初の予定では本日の委員会が最終回の予定でしたが、これまでの委員の皆さまの活発なご議論を踏まえ、正副委員長との協議の結果、令和7年1月30日に最終回として追加開催させていただきたく思っております。どうぞよろしくお願いします。

【事務局】 委員の出席状況と資料の確認

【委員長】

翌年1月にもう1回委員会を追加開催することとしたため、資料1の素案は修正が可能です。もう少し時間をかけて報告書案を揉んでいきたいと思います。それでは、早速議事に移ります。

2 議事

(1) 報告書素案について

【委員長】

事務局より、報告書素案について、前回からの修正点のご説明をお願いします。

【事務局】 資料説明

【委員長】

第四章の総評にはかなり修正点があります。素案ですので、委員会の場で議論を行い、さらなる修正を加えていきたいです。議論の順番は、上から順に進めていきたいと思います。タイトルは本日の最後に検討します。

➤ はじめに (P1)

【A 委員】

目次の体裁について調整をお願いします。

【委員長】

フォントも含めて、最後に微調整をしたいと思います。

【B 委員】

P1の7行目の「コミュニティづくりが行われている。一方で、新型コロナウイルス感染症のまん延や市民のライフスタイルの変化等コミュニティ協議会を取り巻く状況は大きく変化している」の部分です。新型コロナウイルス感染症について全面的に触れる必要はないだろうと思う一方で、コミセンにとって感染症の影響はやはり大きな困難であり、それを乗り越えようとしてきた過程は、コミュニティづくりの大切さを再確認できた機会でした。

修正文案は「～コミュニティづくりが行われてきた」で文を一度切り、「一方で、市民のライフスタイルの変化とコミュニティを取り巻く状況が大きく変化している中で、特に新型コロナウイルス感染症の蔓延がそれまでのコミュニティづくりに大きな困難を与えて、それを乗り越えるなかで、改めて地域コミュニティの大切さが再確認された」でいかがでしょうか。

また P1 の 9 行目に「発展・継続させるには」とありますが、「継続して発展させるには」の方が良いと思います。

➤ 第 1 章 評価の目的と流れ 1. 武蔵野市コミュニティ評価委員会の役割 (P2～3)

【委員長】

第 1 章の大きな修正点は P2 に、評価とは何かを追記したことです。本委員会における評価は、数値的な意味の評価を意味するのではなく、活動を応援するために考えるものであることを示しました。武蔵野市コミュニティ条例に「評価」という言葉があるため、条例に関わる部分は「評価」と記載し、関わらない部分は「考察」と記載することを記載しています。

【A 委員】

第 1 章の項目名「評価の目的と流れ」に、「評価」の言葉が残っていることが気になります。「考察の目的と流れ」で良いと思います。

P2 の中段の「コミュニティ協議会の取組みについて評価を行い」も、「考察を行い」あるいは「現状分析を行い」で良いと思います。

また、P2 の「評価という言葉が当事者の実践活動を委縮させる効果を持つ」という表現に違和感があります。「市民のボランティア活動に対して使う言葉として不適切である」という表現の方が良いと思います。

【副委員長】

本委員会では「『評価』という表現はきついのではないか」、「評価をする側と評価をされる側に分かれるあり方で報告書をまとめていきたい」と議論してきました。ただ、本委員会は条例に基づいて設置された委員会であるために、条例に記載されていることから外れたことはできません。このことを踏まえ、報告書には、委員会の取組みとしては「評価」ではなく「考察」として向き合ってきたことを記載したいので、もし現状の書き方が弱いのであれば、その表現を再考すれば良いと思います。

【委員長】

委員会の設置目的を踏まえ「評価」はしますが、それはあくまでも、数値目標を用意してダメ出しするようなものでなく、同じ目線に立って応援する立場であることが読み手に伝えられたら良いと思います。やはり第 1 章のタイトルには「評価」という言葉を入れざるを得ないと思いますが、文中にコミュニティ条例の改定に言及することも考えられると思います。

「萎縮させる」という表現は、委員の皆さまからご意見をいただきたいです。この表現はよく福祉の分野で使用され、様々な第三者評価に晒されることでがんじがらめになり、新しいことへの挑戦が面倒くさくなってしまうような状況を表現します。

【事務局】

「評価」という言葉は条例中の表現のため、ある程度は扱わざるを得ないと考えます。単なる点数付けのような「評価」ではなく、良い部分にクローズアップして価値を再確認し励ましていくことを主眼とした「評価」であることを表現していきたいです。

【副委員長】

これは本委員会の態度表明にあたると思います。そのニュアンスが伝わるようにしたいです。

【C 委員】

条例上の表記であるなら「評価」という言葉を一定扱わざるを得ないと思うので、文中に本委員会が考える「評価」の意味を説明する流れは良いと考えます。A 委員が提案した「不適切」という表現は強すぎる印象を受けます。本委員会は「評価」という言葉を積極的に用いたくはないと考えていること、そうした立場ではないことを文中に表現できれば良いと思います。

【B 委員】

P2 の「評価という言葉が当事者の実践活動を委縮させる効果を持つ」という表現は固いと感じます。「『評価』という言葉が優劣をつけるイメージがあることを考慮し」などの表現案も考えましたが、「優劣」という言葉も良くないと感じ、代替の言葉を探しています。

【委員長】

「評価」することが上から目線であること以前に、評価者と被評価者の関係にあることへの嫌悪感が重要と考えられるため、「『評価』という言葉が当事者に与える負の影響を考慮し」という表現はいかがでしょうか。

【C 委員】

やはり、コミュニティは一緒につくっていくものであり、今後の方向性を一緒に探っていくものだというニュアンスが伝わるのが大切だと思います。

【委員長】

私も文案を考えるので、次回委員会にてご意見をお願いします。

【A 委員】

「評価」の意味に関する文章は本委員会の決意表明であり重要だと思います。報告書は文量があり、大切なことを読み飛ばしてしまいそうなので、網掛けや斜字等で協調したいです。

【委員長】

見せ方は、事務局でも検討をお願いします。

【B 委員】

P2 の「地域におけるネットワークの構築及び武蔵野市のコミュニティの特性の認知度など」という表現が遠回しで分かりにくいと感じました。この文は、コミセンの運営やコミュニティづくりの取組みがボランティアで行われていることを指していると思いますが、そうした認識も普段コミセンに携わっている人でないと難しいと思います。

【委員長】

何が特性なのか分かるよう、補足を加えたいと思います。

➤ 第 1 章 評価の目的と流れ 2. 考察について (P4～5)

【A 委員】

(2) の考察の対象に記載の表の体裁についてです。2 つのページにまたがっているのが見づらいです。またがるなら、数字の番号を縦ではなく横に振った方が分かりやすいと思います。

【副委員長】

この部分は、本委員会がどのような視点から考察したのかを記載できていれば、内容は問題ないと思います。

【委員長】

その点はある程度意識して作成されています。その点に加えて、指定管理者制度に関する記載

を追記しています。指定管理者制度に則って運営されることによって、行政からの一定の拘束力が生じていることは意識する必要があると考えたためです。

➤ 第2章 考察の方法 1. 考察の基準～2. 考察の方法 (P6～12)

【A 委員】

第2章のタイトルが「考察の基準」なので、P6の図表1内の文言も「評価」ではなく「考察」の方が良いと思います。「2. 考察の方法」の内容は、文面で記載しても伝わりづらいので、大切な部分を強調する等、表現を工夫してほしいです。

【事務局】

参考資料と照らし合わせなくても理解できるよう、必要に応じて図表を入れたいと思います。

【委員長】

読んでもらえるようにする努力が大切です。

【C 委員】

「2. 考察の方法」というタイトルの割に、調査の紹介がなされており、考察の方法が示されていないように感じます。まず考察の方法を記載したうえで、2種類のアンケート調査や、各コミセンの視察、各コミュニティ協議会との意見交換会について記載するべきだと思います。また、アンケート調査の説明には、冒頭に実施概要の記載があると良いと思います。ただ、実施概要の掲載が必要かどうかは意見が分かれると思うので、皆さんの意見を聞きたいです。

【A 委員】

私は、実施概要より先に結果を知りたいです。実施概要の記載は後述で良いと思います。

【委員長】

C委員ご指摘のとおり、「2. 考察の方法」の冒頭に、考察のためにとった方法の紹介としてアンケート2種と視察や意見交換会の実施について記載し、「実施概要は後述」の旨を記載すれば良いと思います。項目は「考察の方法」と「アンケート調査の結果」の2つで良いと思います。

【B 委員】

アンケート調査の結果は、前回調査との比較が図表で見られる方が良いと思います。やはり、前回のアンケート調査結果は新型コロナウイルス感染症の流行前だったことに意味があると感じます。コロナ禍を経て、当然下がってしまった項目もありますが、上がっている項目もあります。そうした項目の比較を通して見えることがあるのではないのでしょうか。

【委員長】

前回調査との比較や背景情報の解釈に関する記載を加えることについてのご意見でした。事務局より意見はありますか。

【事務局】

アンケート調査の結果は、図表で前回調査の結果と比較できるようにしたいと思います。

【A 委員】

P9の「参加団体における課題として、『メンバーが高齢化している』、『メンバーが固定化している』を挙げる割合が高い」という記載は、コミュニティ協議会のことを指しているのでしょうか。

またアンケート調査の結果のうち、次の部分を強調して記載したいです。

- ・ (P8)「『地域』との関わりについての今後の意向」について、「『災害対策・防災活動』、『地域防犯・治安に関する活動』への関心が比較的高いことが示唆された」
- ・ (P8)「地域コミュニティ活動への参加状況は、令和元年度に比べ大幅に減少している」
- ・ (P9)「今後新しく地域コミュニティ活動に参加したいかについては、『参加したくない』が『参加したい』を上回った」
- ・ (P9)「地域コミュニティ活動に参加しやすくなるためにあるとよい条件について、『負担が大きくなり参加できる』、『参加しやすい曜日や時間帯への配慮がある』の割合が高い」
- ・ (P9)「コミュニティセンターが地域住民によって運営されていることを知っている人は約6割であり、これは令和元年度からほぼ変化がない」

【委員長】

P9の「参加団体」は、無作為抽出アンケートの調査結果なので、回答者各々が参加しているあらゆる地域活動団体のことだと思います。「地域における参加団体」に表現を変更しても良いかもしれません。

どうしても数字は独り歩きしてしまうことがあるので、解釈に注意が必要であることに留意しつつ、読み取れる部分は強調して表現しても良いと思います。また図表が加わったものを見て、ご意見をお願いします。

【C委員】

アンケート調査の結果の見せ方は、図表を挿入することに加えて、「近所づきあいについて」等、小見出しをつけるとより見やすくなると思います。

【委員長】

小見出しは目次には反映させなくて良いと思いますが、そうした読み手に読んでもらえる工夫を考えていきたいと思います。

➤ 第3章 各コミュニティ協議会の現状の取組み等 (P13～38)

【委員長】

各コミュニティ協議会への文言についても議論したいところですが、気になる部分は各委員より事務局に寄せていただくこととし、次回に最終調整したいと思います。「総括及び今後期待すること」に記載の項目の並び順は調整が必要だと思います。

➤ 第4章 総評（冒頭の文章） (P39)

【委員長】

総評の冒頭の部分では武蔵野市のコミュニティ活動や市民自治の取組みといった背景を再確認するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったので、そのことを踏まえた提言であることを記載しています。ご意見はありますか。

【A委員】

P39の「この活動により、市民自治という武蔵野市の市政運営の基本原則が、幅広い市民の間で培われ、根付いてきた」という表現に疑問があります。設立当時は市民自治の原則が根付いていたと思いますが、それは現在でも言い切れることなののでしょうか。

今の武蔵野市は、本来行政が担うべき役割を、市民自治と称して市民ボランティアに頼んでい

る状態なのではないでしょうか。自主三原則を掲げて、行政が自らの守備範囲の線引きをしているように思えます。またそのことで困っているという声もコミュニティ協議会から聞かれました。コミュニティ構想が出来てから長い月日が経過しているので、このやり方が本当に良いのか見つめ直す機会が必要なのではないかと思います。

【委員長】

断定調にすべきかについてご意見いただきました。「根付かせようとしてきた」など前進的な表現も考えられるかもしれません。

【C 委員】

総評の冒頭の部分で、本委員会と比較的長い時間をかけて議論してきた「コミュニティとは何か」や「ボランティアの意味がどのように変化したか」等、コミュニティ協議会の皆さんが感じている変化を含め、地域コミュニティをめぐる大きな変化についての記載があっても良いと思います。

【委員長】

コミュニティとは何かを書くのは厄介ですが、自主的な参加への考え方が変化していることについて、本委員会がどのような考えをもって議論してきたのか、また、ボランティアとして参加することに関して前提となる社会条件が変わりつつあることなどは書けると思います。どこに記載を加えるかは検討したいです。

【B 委員】

コミセンがあり、コミュニティ協議会を中心に地域活動が行われていることが、市民にとって当たり前になってきているので、コミセンが当たり前であり続けることは大変であることを書きたいです。また、自治会や町内会のように、制度として市民自治が標榜されている訳ではない中でも、コミセンが当たり前の存在になりつつあることは、市民自治の根付きの話にも繋がると思うので、触れた方が良いと思います。

【委員長】

コミセンの存在が当たり前になってきていますが、それは当たり前ではなく、作り上げてきたものであることと、また作り上げてきたことによってある種の拘束的な条件が生まれていること、さらにはそこに自主参加の背景があることについて触れたいと思います。読みやすいように心がけつつ、市民自治を構想してきたことの意味を記載できたらと思います。

【C 委員】

市民自治の原理が根付いているかについて疑問のご意見もありましたが、私は、現在の取組みには評価すべきところが大きいと思います。もし、単なる貸館業として行政がコミセンの運営を担っていれば、今のように地域に合わせて自由に使える場にはならないと思います。多くの市民にとってコミセンの存在が当たり前となりつつあるために、こうした市民自治の成果が評価されづらくなっていますが、現状の取組みのすごさや、もし今のあり方を手放せばとても使いにくい施設になるだろうことは記載したいです。

【委員長】

武蔵野市の市民自治はコミセンのみで行われている訳ではありません。計画策定に市民公募委員に参加してもらい、個人単位の自主的な取組みを促すといった部分にも表れています。また、市民自治は理想的な目標であり、100%達成することは不可能に近いものなので、「市民自治の考

えが根付いてきた」あるいは「常に考え変わり続けていくようなプロセスが市民自治だ」という説明を抽象的に記載できたら良いと思います。

その上で、それが一定程度とは言え実現できてきたのは、1970年代以降の時代の状況によるものであり、時代背景が変わるなかで、それを今後も踏襲して良いのか、昔の理想を取り戻すより現状にあった理想をどう考えるべきなのかは意識すべきだということを記載した方が良いと思います。また「市民自治」は大切な言葉であると同時に強い言葉なので、その意味を解きほぐして記載したいと思います。

➤ 第4章 総評 1. 全体に共通する事項について

(1) 市民のコミュニティ協議会への理解 (P39～40)

【D 委員】

「②今後に向けて」の文中に、コミセンがボランティアで運営されていることに加えて、利用している人がいつでもボランティアに加わることを記載したいです。

【B 委員】

「②今後に向けて」で、コミュニティ協議会に対して「行う必要がある」という表現は上から目線だと思うので、「〇〇に期待する」等の書き方の方が良いと思います。

【委員長】

「〇〇を行っていただきたい」や「〇〇が望ましい」等、他の部分とも表現を揃えながら修正したいと思います。

【A 委員】

P40の「コミュニティ協議会の果たしている役割を適切に理解し、その取り組みを称賛すべきである」の記載について、ボランティアによる取り組みであることを強調して記載したいです。

またP40の「市の職員に対し、武蔵野市のコミュニティ施策やコミュニティセンターへの理解を深める取り組みを行うべきである」の記載については、唐突な表現で伝わりづらいので、「ボランティア市民に対するリスペクトが不足している現状があり」等の記載を加えたいです。

【委員長】

ご指摘のとおりだと思います。いただいたご意見の2つ目は、「①現状について」に追記することも考えられると思います。実際、市職員の中でも、コミセンと縁の薄い部署に長く配属されている人はある程度仕方ない側面もあると思いますが、改善できる部分はあると思います。

➤ 第4章 総評 1. 全体に共通する事項について

(2) コミュニティ協議会のあり方について (P41)

【A 委員】

P41の冒頭「各コミュニティ協議会の事務は大きく」は「事務」でなく「事務作業」という表現が適切だと思います。

また「②今後に向けて」の「(イ) 行政に求められる取り組み」の「行政に求められる取り組み」については、「依頼する作業の精査」に留まらず、「依頼する業務の合理化・削減」にまで踏み込んでもらいたいです。

【副委員長】

(2) のタイトルは、続く文章の内容を踏まえると「(2) コミュニティ協議会のあり方について」ではなく、「(2) コミュニティ協議会運営のあり方について」の方が良いと思います。意味が狭くなりすぎてしまうでしょうか。

【委員長】

良いと思います。あるいは「あり方」というより「業務」と言ってもいいのかもしれませんが。

【C 委員】

現状、事務作業のことのみの記載となっていますが、コミュニティ協議会から話を聞いてきたなかには、コミセンの窓口での受付や事務作業の部分と、自主事業の部分とのバランスについての議論がありました。双方について記載して良いと思います。

【委員長】

この辺りは、ぜひ現場の声としてD 委員のご意見も伺いたいです。

【D 委員】

地域の団体との関わりに苦労することが多いです。コミセンを運営する中で、できるだけ多くの人を味方につけようとはしますが、地域の団体等からあらゆる要望がコミセンに求められてくるので、人間関係に難しさを感じます。

【副委員長】

「①現状について」では、事務作業が「①指定管理業務に関わるもの」、「②武蔵野市コミュニティ研究連絡会に関わるもの」、「③コミュニティ協議会自らの活動のためのもの」等に区分けされて記載されています。自主事業や地域コミュニティづくりのための活動は「③コミュニティ協議会自らの活動のためのもの」にあたり、一般に言う事務作業は「①指定管理業務に関わるもの」だと思います。そうした線引きで整理して考えると、追記すべきポイントが見えてくると思います。

【委員長】

指定管理にかかわる事務作業は、依頼する作業の精査・合理化・削減があつて良いと思います。ただ、「③コミュニティ協議会が自らの活動のためのもの」の削減を推進するのは変な話なので、そこは削減でなく、作業の合理化や適切な支援を提供することが適切だと思います。また、地域で活動することに伴う調整作業、あるいは人間関係づくりは、合理化にも馴染まないと思いますので、むしろその部分に注力できるように、他の部分の負担を減らす方向が良いと思います。つまり行政は、コミュニティ協議会が「③コミュニティ協議会が自らの活動のためのもの」に取り組むことへの支障とならないよう配慮して、コミュニティ協議会に対して事務作業を依頼すべきだと思います。

では「①」等の項目番号が重複しないように工夫の上で、「(ア)」や「(イ)」がどの「①」等のどの部分に関わる話であるかが分かるように記載できればと思います。

【C 委員】

本委員会の議論のなかには、利用者の市民からすると、各コミセンで使用の決まりが異なることに戸惑ってしまう話がありました。ここに「コミュニティ協議会の事務負担軽減に向けて、ある程度決まりを揃えることも視野に検討してほしい」旨を記載するのはどうでしょうか。

【委員長】

「決まりを揃える」と言った時、その中には、予約の仕方や開館時間等、様々なレベルの決ま

りが含まれます。現場の感覚として、内容によって言ってほしい部分と言われたくない部分があるのではないのでしょうか。今後、コミュニティ協議会と本委員会委員の意見交換の場があるなかで言及することもできると思いますが、報告書中に記載してしまって良いか悩ましく感じます。

【副委員長】

自主性や自主三原則がうまく機能している部分がある一方で、それがある種の盾となり全体で共有できなくなっている部分があり、悩ましいです。ただ、市民の利用の視点から見た時にどう考えるべきかという観点で話し合えば一定程度の整理ができると思います。そう考えた時には、全て違って良いとは言えないのではないかと思います。「独自性を担保しながら」という記載は残しつつ、利用者がコミセンの利用に際して戸惑うことについては一定のアベレージをつくることについての提案は、報告書に記載しても良いと思います。

【委員長】

今後に向けての話ですので「共有化すべきところと、そうでないところを考える」等、問題提起をする程度に留めるのが良いかもしれません。加えて、現状として様々な要望があったことを記すのは良いと思います。

➤ 第4章 総評 1. 全体に共通する事項について

(3) 人材の確保について (P42)

【C 委員】

「①現状について」の「有償ボランティアへの手当ではなく給与としたほうがよいのではないかとの議論もあった」という記載について、書いてしまって良いのか、表現が独り歩きしないか気になります。

【委員長】

委員の皆さんから様々ご意見のあった部分ではありますが、この部分はもう少し緩く「有償ボランティアの手当については、そのあり方について議論もあった」程度の書きぶりでも良いかもしれません。

【A 委員】

私も、給与にした方がよいとは考えていません。コミュニティ協議会から「人が集まらない現状で困っている」という声があったので、最低賃金の水準まで手当を上げた方がよいのではないかという考えです。

【委員長】

それでは「給与とした方がよいのではないか」の表現は削除し「手当の水準や位置づけについて議論があった」程度の書きぶりに修正したいと思います。水準に関しては、上げてほしいと考えるコミュニティ協議会の他に、今のままでいいと考えるコミュニティ協議会もあったので、ややニュートラルな表現で修正したいと思います。

【副委員長】

「(3) 人材の確保」というタイトルですが、文章は窓口当番の人員確保についての記載となっていますが、窓口当番は運営委員の一部であり、大切なのは運営委員の人材を確保することだと思っています。「窓口当番についてはこうした問題があるので、手当の問題も含めて検討すべきなのではないか」という書き方が良いと思います。たしかにコミュニティ協議会との意見交換会の

なかで、窓口手当に関する声は多く聞かれましたが、それは話題にしやすいからであって、もし窓口当番手当を最低賃金水準にまで引き上げたとして、本当に地域コミュニティづくりの仲間が増えるのかは疑問です。窓口当番の人員は増えても運営委員の人材がいないことになりかねません。

【B 委員】

やはり、窓口当番手当の話に偏りすぎている感じがします。「②今後に向けて」の「(イ) 行政に求められる取り組み」に「各コミュニティ協議会での取り組みを共有する取り組みが必要である」とありますが、この部分が大切だと思います。この部分や「(ア) コミュニティ協議会による取り組み」では「多様な参加の仕方についても研究を行うことも必要である」が、項目の並びとして一番上にある方が良いと思います。

例えば、コミセンを利用していた子どもが大学生になった時にコミセンの運営に携わることで、地域活動に関わるきっかけになることや、小学生の子どもがいる親世代が参加しやすくなる取り組みや、コーヒータ임을きっかけに高齢者がコミセンを訪れて運営を手伝うようになった等、コミセン利用者がボランティアになれることを記載すると良いと思います。

【委員長】

確かに、今の記載では窓口当番手当に関する記述に偏っていますし、コミュニティ協議会の活動そのものが参加者にとって魅力的なら人が集まるという視点は大切です。コミュニティ協議会の運営に関わる人にとって魅力的な場所となることを意識しながら様々な活動を行うことの大切であることや、窓口当番手当は単なるインセンティブであり、他にも魅力のつくり方があることを意識して記載したいと思います。ただ、窓口当番手当は行政の予算に関する話なので記載は残したいと思います。

➤ 第4章 総評 1. 全体に共通する事項について

(4) コミュニティ協議会同士の情報共有 (P42~43)

【委員長】

ここはコミュニティ協議会同士の情報共有の大切さを記載しています。ご意見はありますか。実際に取り組むのは難しいという課題はありますが、特にないようなので次に進みます。

➤ 第4章 総評 2. 行政に対する提言について (P43)

【A 委員】

P40の「市長をはじめ、全ての市職員に」は「に」ではなく「は」だと思います。

また、市民にとって自主三原則は権利であって義務ではないと私は理解しています。自主三原則は、市民がやりたいと言うなら行政はそれを尊重するという理念であり、もし市民が困っているのであれば、市は適切に支援の手を差し出すべきだと思います。

【委員長】

今のご意見について、皆さまいかがでしょうか。私の解釈では、武蔵野市の文脈においては逆で、市民の権利というよりは、行政にとって、行政が口を出すことを控えるために使われてきたと解釈しています。

ただ、防災の分野は難しいです。国が地域における防災組織の設立を全国に求めた際、他の多

くの自治体では自治会や町内会にその役割を求めましたが、武蔵野市はコミュニティ協議会とは別の防災組織をつくりました。そこには、コミュニティ協議会が自主三原則の理念をもっている中で、コミュニティ協議会が自主的に取り組まない限り、コミュニティ協議会にその役割を求めることができなかったという経緯があります。

自主三原則がある一方で、コミュニティ協議会の活動は自主参加が前提となっているため、市民にとっての義務にはなりえないと考えています。ただ、現状としてはコミセンへのフリーライダーが増えてきていると思います。

【副委員長】

自主三原則のことで言えば、指定管理者制度と自主運営のすり合わせの話だと思います。指定管理という制約がある中で、何でも好きに活動していいのかという点について、どう整理をつけていくのかだと思います。自主三原則はあくまでも市民側の武器として使わなくてはならないものであり、市民がそう理解するよう努力しなくてはならないと感じます。

【B 委員】

コミュニティ協議会の自由度をなくした時には、単なる貸館として、つまらない施設となってしまいます。指定管理者制度でコミュニティ協議会に対して建物の管理運営をお願いしていますが、その建物の中で実施することはコミュニティ協議会の自由であって、コミセンごとに違いが出ています。それが地域コミュニティづくりだと思います。

行政は、指定管理者制度と自主運営の考えの狭間で、コミュニティ協議会が戸惑ってしまうことがあるならば、指定管理者制度に則った部分と自由度の高い部分の線引きを明確に打ち出さなければならぬと感じます。指定管理制度の中でコミュニティ協議会にとって負担が大きい部分は、行政から適切な支援を提供することや、コミュニティ協議会の自主事業の中で負担が大きい部分は、それを実施するためのノウハウをパッケージ化して提供すること等が考えられると思います。また、行政として協力しやすい部分は行政の責任としても担い、行政が携わりづらい地域づくりの部分はコミュニティ協議会にさらなる自由度を持たせること等も考えられると思います。

ただ、自由度を持たされることが負担になってしまうコミュニティ協議会もあると感じるので、負担感や重たさを感じないよう配慮した書きぶりが必要だと思います。

【委員長】

行政が責任を持って担う部分を整理する必要があると思います。また、自主三原則によって自由度を持つことについて上手く取り組んでいるコミュニティ協議会もあれば、課題や負担感を感じているコミュニティ協議会があると思います。そのことへの理解についても記載して良いと思います。ただし、これは行政への提言ではないので、どこに追記するかは検討したいです。

➤ 第4章 総評 3. 市民への提言について (P43~44)

【A 委員】

P44 の「コミュニティセンターは利用者と同一地域住民によるコミュニティ協議会が指定管理者として運営する施設である」の部分は大切なので、強調したいです。

【委員長】

見せ方は考えたいと思います。報告書の概要版の作成は予定していますか。

【事務局】

概要版の作成は予定していません。

【C 委員】

市民に向けて「フリーライダーにならないで」と書きたいですが書きづらいので、読み手に、あなた自身もボランティアのなり手の1人であることを気づかせるような文章が入れられると良いと思います。

【委員長】

今の案では「コミセンの成り立ちや存在意義を理解してほしい」というメッセージがメインですが、それに加えて「地域の一員として活躍してほしい」というメッセージを追加したいと思います。

【B 委員】

本委員会としては「市民に地域コミュニティづくりの担い手になってほしい」という想いがありますが、おそらく今コミセンに関わっていない市民には、1回携わると抜けられなくなることへの怖さがあるのではないかと思います。だから書きぶりとしては「イベントへの参加等、まずはコミセンを使ってみてほしい。さらに、できれば地域の一員として参加してくれる人が増えることを願っている」程度が良いのではないかと思います。

【委員長】

では「まずは知って、何らかの形でコミセンを訪問してみて、もし気に入ったならあなたもメンバーであるし、参加の仕方は様々あるので、何らかの関わりをもってほしい」といった書き方になるかと思います。あるいは、コミセンが防災に関する取り組みをしていることや、危険物のごみ袋を配布していること、地域の情報発信の場となっていること等を紹介する等して、大きな目的がなくてもコミセンに足を運ぶと良いことがあるかもしれないことを示しても良いかもしれません。

【副委員長】

ピントの外れたことをあえて言うとして「コミセンは市政センターではありません」と書くのはどうでしょうか。転入者等で、コミセンの窓口に市役所の出張所だと思って来る人が時々います。

【委員長】

もし書くなら、「2. 行政に対する提言について」かもしれません。

【D 委員】

「市民」や「地域住民」という言葉は統一しなくて良いものでしょうか。

【委員長】

「3. 市民への提言について」で、あえて「市民」と書いているのは「市民」の理念系として記載しているためです。一方「地域住民」という表記は、距離の近隣性を踏まえて記載しています。私としては書き分けていますが、読み手に伝わらないなら「地域住民」に統一しても良いかもしれません。検討して整理したいと思います。

【B 委員】

P44の「武蔵野市のコミュニティ構想に基づき、市民の誰もが自由に利用出来る多目的施設として設置された」の部分は「市民の」を削除しても良いかもしれません。

【D 委員】

「第一号のコミュニティセンター」は固有名詞を出さなくて良いでしょうか。

【委員長】

固有名詞にしても良いかもしれません。

ここまで第3章を除いて議論してきましたが、委員の皆さまから他にご意見はいかがでしょうか。特にないようですので、本文に関する議論はいったんここまでとしたいと思います。第3章については、後日ご意見を寄せてください。

➤ 報告書のタイトル

【委員長】

最後に報告書のタイトルについてはいかがでしょう。

【A 委員】

「コミュニティ協議会による武蔵野市のコミュニティづくりについて 現状と展望」というタイトルは「コミュニティ」という言葉が2回でるのがくどいと感じます。「コミュニティ協議会による」を削除するのはどうでしょうか。

【委員長】

削除しても良いと思いますが、報告書がコミュニティ協議会に特化した内容なので悩ましいところだと思います。現状のタイトルは内容を正確に表現しており、正確であるが故に魅力に欠けているのだと思います。

「ポストコロナにおける武蔵野市のコミュニティづくりについて」等、コロナ禍を乗り越えたことと、変化したことへの想いを込めるのはいかがでしょうか。

【C 委員】

「コミュニティ協議会」の文言は残した方が良いのではないかと思います。

【委員長】

「コミュニティ協議会のさらなる飛躍のために」や「ハブになってもらうために」等も考えられるかと思います。

この場で決定するのは難しいと思うので、次回までに事務局に案を寄せていただき、寄せられた全ての案を並べてその場で決定しましょう。

他に皆さま言い残したことはありますか。たくさんのご意見いただいたので、次回最終回で皆さまにお諮りし、改めてご議論いただきたいと思います。それは、本日の議事を終了します。

3 その他

【事務局】 次回委員会の内容について説明

第3章を中心に素案へのご意見とタイトル案は年明け1月14日までに事務局にお願いします。

【副委員長】

第3章の部分は、コミュニティ協議会が最も関心をもつ章だと思います。忌憚なく議論がしたいので、読んで気になったことは事務局に積極的に伝えていただくようお願いします。

4 閉会

【委員長】

ではこれで全ての議事が全て終了しましたので、第5回第五期コミュニティ評価委員会を終了

します。皆さま、ありがとうございました。